

令和3年度春季地区高等学校野球大会 新型コロナウイルス感染防止ガイドライン 実施要領

令和3年4月23日

秋田県高等学校野球連盟

1 大会運営の基本的な考え方

- (1) 有観客試合とする。
- (2) 有料試合（一般500円、高校生100円）とする。
- (3) 感染者発生に備え、追跡調査可能な環境をつくる。
- (4) 感染対策を施し、選手および関係者の安心と安全を担保する。
- (5) 感染拡大の状況によっては、大会前または大会中に無観客試合に変更する場合がある。

2 開催中止の判断

- (1) 秋田県の警戒レベルが「4」、「5」になれば延期または中止とする。
- (2) 秋田県教育委員会から次の指示が出た場合は中止とする。
 - ① 学校の一斉休校
 - ② 部活動の自粛要請
 - ③ 大会自粛要請
- (3) 大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場合は、日本高野連が策定した対応表に沿って、次の通りとするが、保健所の指示には従わなければならない。

	感染者が発生した場合の対応	濃厚接触者（家族や職場などで感染者が出た）となった場合の対応
大会役員 審判委員	感染者以外の大会役員、審判委員が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。濃厚接触者の場合は判明日から2週間は自宅待機とし、別の大会役員、審判委員が運営にあたる。	当該者は2週間の自宅待機とする。 2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰可能とする。
指導者 部員	感染者以外の濃厚接触者の行動歴を割り出す。感染者以外の指導者、部員は基本的に濃厚接触者になると思われるため、参加校は試合への参加を自粛する。	濃厚接触者は2週間の自宅待機とする。 それ以外の指導者、部員で試合に参加できる。

3 入場者数の制限

秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部「新型コロナウイルス感染症対策について」を踏まえ、円滑な大会運営を図るため、各球場の入場定員を次のとおりとする。

- (1) 県北地区：能代球場 1,500名(4,500名)
- (2) 中央地区：こまちスタジアム 5,000名(15,000名)、さきがけ八橋球場 2,000名(8,581名)
- (3) 県南地区：グリーンスタジアムよこて 1,500名(3,990名)、大曲球場 1,500名(3,340名)

※（ ）内は各球場におけるバックネット裏と内野スタンドの合計収容定員。

なお、原則として外野席への入場は不可とする。

4 来場者（大会役員、出場者、審判委員等）の健康管理

- (1) 球場入りする大会役員、出場者、審判委員等は検温と健康観察を継続して行うこと。また2週間前からの行動歴(いつ、どこに行き、誰と会ったか)の記録、マスク着用を義務付ける。
- (2) 各校は参加にあたり、当該校校長の同意を得る。校長は参加選手の健康に問題がないことを学校医から証明を受けるか、もしくは、保護者から選手の健康についての参加同意書を得る。

→ **別紙「証明書」「同意書」**

責任教師は、上記を踏まえた上で「選手資格証明書」を作成する。

- (3) 責任教師は、参加2週間前から部員の健康状態を把握する。

→ **様式1「個人用 検温確認表」**

- (4) 責任教師は、試合当日、球場到着後、直ちに次の①～③(様式2～4)の検温確認表を大会本部へ提出する。

① **様式2「ベンチ入り者用(ボールボーイ、補助員含む) 検温確認表」**

② **様式3「応援部員用 検温確認表(兼入場申請書)」**

③ **様式4「学校関係者用 検温確認表(兼入場申請書)」**

- (5) 球場入りは、選手資格証明書に登録された24名(選手20名、記録員1名、責任教師1名、監督1名、ノッカー1名)、ノック補助員(兼ボールボーイ)3名、大会補助員(放送、記録、カウント操作、パソコン操作等)のみとする。

※荷物の運搬は、ベンチ入りメンバーおよびノック補助員(兼ボールボーイ)で行う。

※副部長およびコーチ等は応援席での観戦(応援部員の指導を含む)を原則とする。ただし、大会役員としての割当てがなされている場合は、その限りではない。

- (6) 審判委員は入場の際、マスク着用の上、検温する。また、責任審判委員は検温確認表(当日球場入りする審判委員の健康状態を記録)を大会本部へ提出する。

→ **様式5「審判委員用 検温確認表」**

- (7) 前試合のチームが退場してから次試合のチームが入場する。それまで、次試合のチームはスタンド席(一般の観戦者の迷惑にならないようにソーシャルディスタンスを確保した上で着席)あるいは球場外等で待機する。

- (8) 球場内のロッカールーム(選手控室)は原則として使用しない。**道具置き場は各球場配置の大会役員の指示に従う。**なお、選手が球場入りする際は、持ち込む道具類を必要最低限のものにとどめる。

5 入場者

入場者を(1)、(2)のとおり分類し、対応する。なお、(1)、(2)ともに第1試合開始予定時刻の1時間前を目安として入場させる。

- (1) 学校関係者(野球部員、副部長・コーチ、校長、学校職員)

大会役員は「検温確認表(兼入場申請書)」(様式3・様式4)をもとに入場者の確認を行う。

その際、手指消毒をお願いしマスクの着用を確認する。また、当該校の野球部スタッフも大会役員とともに、必ず対応に当たる。

- (2) 一般観戦者(保護者含む)

一般観戦者には、健康確認票(氏名・連絡先・健康確認チェックリスト)への記入をお願い

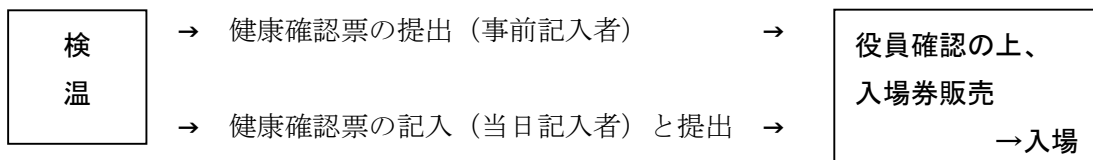
する。

→ 健康確認票（個人票または団体票） 次の①または②の方法で提出する。

①秋田県高等学校野球連盟HPよりダウンロードし、事前記入の上、当日提出。

②当日、球場受付にて記入、提出。

○ 一般観戦者入場までの流れは次のとおり。



①当日の球場での混雑を避けるため、健康確認票への事前記入の協力を周知する。

②提供された個人情報感染が確認された場合の、追跡調査のみに使用する。

③入場口と退場口を分けて、不特定多数との対面での接触を減らす。

④再入場する場合は、都度検温を実施する。

○ 入場者につぎのことを呼びかける。

①マスクの着用。

②スタンドでの席と席の間は1.5m～2m空けること（最低でも1席空ける）。

③むやみに座席を移動せず、ソーシャルディスタンスをとる。

④自分の座席位置を確認できるように記録（写真、メモ等）すること。

⑤「秋田県版新型コロナウイルス安心システム」を積極的に活用すること。

○ 次の者は入場を許可しない。

i) 球場入場時、検温により37.5℃以上の発熱があった方。

ii) 1週間前から来場時まで本人や家族に下記症状のある方。

37.5℃以上又は平熱より1℃以上の発熱 繰り返す咳 持続する咽頭痛

持続する鼻汁 持続する鼻閉感 持続する頭痛 強い嗅覚障害

強い味覚障害 立位や座位がつらい程の倦怠感 下痢 嘔気・嘔吐

持続する目の痛み 眼球結膜の充血 苦しそうな呼吸（25回/分以上など）

iii) PCR検査で陽性歴があり

①有症状者では、発症日から10日未満で、かつ、症状軽快後72時間以内

②症状軽快後24時間経過から24時間以上の間隔をあけ2回のPCR検査で陰性を確認できていない

③無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満

④検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあけ2回のPCR検査陰性を確認できていない

iv) 濃厚接触者として自宅待機中の方、もしくは家族が濃厚接触者として自宅待機中の方。

v) 海外から帰国（日本に入国）して14日以内の方。

vi) マスク非着用の方。

VII) 氏名・連絡先・健康確認票の記入にご協力いただけない方。

6 入場券販売の際の留意事項

- (1) 入場券購入時における密集、密接を回避する。
- (2) 入場券販売者はマスクを必ず着用し、飛沫防止用のパーテーション（アクリル板等）、またはフェイスガードを併用し、対面販売での感染回避に努める。
- (3) 入場券販売者は衛生手袋を使用し、金銭および入場券のやりとりの際はトレーを使用する。
- (4) 入場時のもぎりの担当者はマスクを着用し、衛生手袋を使用する。
- (5) 衛生手袋を脱いだ時は手指消毒を行う。

7 試合

- (1) 球場の入退場時、各チームはマスクの着用を徹底し、手指消毒を行う等の感染予防に努める。
- (2) 試合前のメンバー表交換の時間はそれぞれ試合開始の1時間前とする。
- (3) 道具については試合前後の除菌消毒を徹底する。
- (4) 飲料水やタオル等は個人専用とし、カップ等は共用しない。
- (5) 投手用ロジンは両チーム用として大会本部で2個用意する。打者用ロジンは各チームで用意する。
- (6) 試合前、シートノック後、5回終了時、試合後のグラウンド整備は勝敗に関係なく、当該校のベンチ入りメンバーおよびノック補助（兼ボールボーイ）で行う。
- (7) 試合前後の挨拶は通常の通りとするが、発声を控え一礼のみとする。また、円陣を組んでのミーティングや声出し、ハイタッチ等の接触を伴う行為は自粛する。守備のタイムでマウンドに集まった際は、グラブで口を覆うことを心がける。
- (8) 試合中、プレイヤー以外（責任教師、監督、試合に出場していない選手、記録員、ボールボーイ）は、マスク着用を必須とする。ノッカーおよびノック補助員は、シートノック時にはマスクを外してもよい。
- (9) 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師管理下にて当該校で行う。

8 応援

- (1) 禁止事項（飛沫感染、接触感染を防止するため）
 - ①大声での声援、応援、合唱（試合中、試合前後とも）。
 - ②鳴り物の使用（ブラスバンドを含む）。
 - ③ハイタッチや得点時に座席の上に立ったり、1カ所に集まる行為。
 - ④タオルを回す等の行為。
- (2) 許可事項
 - ①プレーの度の拍手や通常の声援（両手をメガホン代わりに使わない）。
 - ②拍手での応援（自席で手を叩く程度で大声は発しない）。

③メガホンの持ち込みは可能であるが、使用する際は声を出さず叩くのみとする。

④太鼓の使用（原則として1.個まで）。 ※和太鼓は不可。

※ 第93回選抜高校野球大会で、「各出場校がブラスバンドで録音した音源を試合中の攻撃時にアルプス席へ向けて、球場内スピーカーで流す」という応援を許可したが、これは野球部員同様にブラスバンド部員も阪神甲子園球場での応援を目標に日々の練習に取り組んでいる部員に対する教育の一環としての救済策である。この応援方法を、当連盟は採用しない。

(3) その他

①マスクの着用、咳エチケットを遵守し、球場内設置の消毒液で手指消毒をする。

②むやみに座席を移動せず、ソーシャルディスタンスをとる。

③自分の座席位置を確認できるように記録しておく。

9 報道機関への対応

(1) 報道関係者は報道機関ごとに、入場申請書（報道・中継関係者用）を、4月28日（水）午後4時までに県高野連事務局へメール（office@akita-koyaren.com）で提出する。

(2) 各球場とも報道に携わる記者やカメラマンの人数を新聞社は各2人、テレビ局は各3人までとする。速報発信のための記録員は、各球場とも1人までとする。検温、手指消毒、マスク着用の上、入場を許可する。その際、健康確認票を提出し、大会本部発行の入場証を身につけること。事前登録のない方の入場は認められない。

(3) 試合前の取材、送迎バス内での選手や監督への取材は原則禁止とする。

(4) 取材は記者室、カメラマン席、中継席、スタンドに限る。スタンドでの学校関係者の取材は禁止とする。

(5) 試合後は、1チームあたり2人の選手と監督の計3人（2チームで計6人）を全社で取材する。

(6) 取材時間は1チームあたり20分（一人10分以内）まで、2チームで計40分を目安とする。選手・監督と取材陣は少なくとも2メートル距離をあける。

10 表彰式

○表彰式は簡略化して行う。

11 その他

(1) 審判委員の試合前の用具点検用として衛生手袋を使用する。

(2) 審判委員への給水は、控え審判等に依頼する。感染防止を踏まえ、タオル等の提供は行わない。